

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501204		
法人名	(有)大島		
事業所名	グループホームいきいき		
所在地	長野県下伊那郡松川町元大島5274 - 22		
自己評価作成日	平成23年8月24日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13 - 6		
訪問調査日	平成23年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東西の山々を眺め自然に囲まれ移り行く季節を利用者様と共に楽しみ、地域の方々と共に生活をしております。木のぬくもりを感じることのできる建物で屋内も家庭的な造りになっています。利用者様のその時その一瞬が穏やかで楽しいひとときの積み重ねとなるようスタッフ一同心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は果樹園に囲まれ、南アルプスを眺め移りゆく風景を利用者と一緒を楽しまれている。事業所内は和やかな雰囲気であり、季節の草花を植えたりして、職員の工夫やアイデアが随所で活かされているなど、居心地よく過ごせる家庭的な雰囲気をつくりあげている。管理者は「利用者一人ひとりの尊厳を大切に」をモットーとし、理念の徹底と、職員教育として接遇の徹底を図っている。利用者の生活のほとんどを職員との関わりで占めている中、どんな確かな介護より利用者が求めているものは、傍にいてくれて笑いかけてくれる人であると、そのためには職員自身が楽しいと思える事が大切であると、管理者及び職員は一人ひとりの心情を察しながら丁寧に利用者へ接し、ゆったりと楽しく自分らしく生活できるように、「ずーっと」の理念を具現化している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いきいきの理念を念頭に置き、日々管理者及び職員が共有し実践につなげている。	その人の尊厳をずっと大切にしようと掲げられた理念は、職員会等において確認され、日々の実践の中で具現化するよう努めている。地域に配布しているグループホームの新聞にも理念を記載されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の馴染みの店での買い物や地域行事に参加し交流を図っております。(お祭り、文化祭、福祉広場等)	地域の祭りがホームまで来たり、文化祭や福祉広場の開催等の参画を行い、季節や行事に関われるよう温かい支援が得られている。町民との会話を交わすなど普段着の交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、老人クラブ、商工会議所等の認知症サポーター100万人キャラバン養成講座や認知症についての講座等、要請に応じ行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いきいきでの活動など地域の方家族に報告し、サービス向上のため話し合い、地域との交流につなげている。	会議では、事業所の理念や運営方針、サービスの実際等報告すると共に、行事の参加のお誘いをしながら、委員から意見をもらうよう努めている。	会議のテーマを設定し、地域の消防団や中学校の関係者から会議への参加協力を得たり、家族等に会議の議事録を案内するなどして、会議を通じ、更に地域の付き合いを図りながら、サービスの向上に期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡を取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業所の困難事例等相談にのってもらうなど、町からは事業所運営全般にわたり協力が得られている。機会がある度に事業所へ訪問され、協力関係を築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを代表者及びスタッフが研修会等で学び取り組んでいる。	職員に、身体拘束に関する資料を個々に配布し、学び理解している。利用者が抱える不安や混乱に対し、支援のあり方について全員で話し合いながら、日々確認し適切な支援となるよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、職員会で学ぶ機会を持ち、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議等にて意見を出していただき運営に反映している。	意見箱の設置や、家族会の開催等により活発な意見の交換の場を持ち、さまざまな意見を得られる様努めている。リハビリの希望が出された際、体制を整えサービスの提供を行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の職員会にて意見や提案を出し合い反映させている。	ミーティングや職員会において、職員から意見が出しやすい雰囲気を作っている。風呂の介助について、要望が出され検討を行うなど、管理者はその都度話し合いを行い、個別の支援及び、意見を運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修や資格取得の為の援助、職員同士でのケアに対する意見交換やトレーニング等を行い職員同士のスキルアップ向上に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、集い等で交流を通じ意見など聞きサービスの向上につなげている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で本人が困っていることや要望など耳を傾け安心できるよう関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の中で要望等聞き、ニーズに添えるよう対応を心がけ、信頼関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が最優先している支援を見極め対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と暮らしを共にする関係は一番の基本としている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされた場所に出かけたり、馴染みの方が気兼ねなく来て頂けるグループホームであるよう心がけている。	学生時代の友人が事業所へ訪れた時は、他の利用者と一緒に居間で過ごす時間を楽しんだり、利用者の居室で過ごせるよう職員がさり気なくサポートをしている。知り合いの場所に、訪問するなど心情に配慮した支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方を十分把握し、利用者同士の関係が良いものになるよう係わり合い、穏やかに暮らせるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係を大切に相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を大切にしたい暮らしができるように努めている。	日々の関わりの中で、職員は細かい事柄も記録に残し、職員会で思いや意向の把握を共有している。利用者の思いを聴く事を重視し、困難な利用者は、表情、しぐさ等から思いや意向をくみ取り、又、家族からの情報を得よう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、又サービス利用の経過等把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり暮らしの状況等詳細に記録し全職員が把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、職員会等で意見を出し合い介護計画を作成している。	毎日の記録を蓄積し、モニタリング時に反映させている。サービス実施状況欄は、目標に基づきサービスの内容を具体的に記録し、家族等の訪問時に意見等を聴き利用者本位の介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とその情報を共有し実践に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるため柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して本人の思いに添った生活を楽しめるよう協働している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医が定期往診(毎月)又必要に応じて随時往診や受診をしている。家族の都合の付かないときなど職員がかかりつけ医へ送迎、付き添いしている。</p>	<p>定期受診は家族対応で通院支援を行っている。職員も受診の付き添い等を行いながら柔軟に対応している。受診の状況は随時家族等又は職員にも報告し、利用者が適切な医療を受けられる様支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護員は看護師と常に連携、相談をし利用者が適切な看護を受けられるよう支援している。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時、常に医療機関と情報交換、相談に努めている。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人家族等と話し合いを持ち、できる限り希望に添った方針を共有し、関係者と共に支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期に向けた事業所の方針については、出来る限り希望に沿った支援を行う事としている。今までに、看取りの経験もあり、家族、利用者の思いを汲み取るよう努めている。</p>	<p>本人や家族の安心感を得られる様、意思の確認書等により、主治医等のチームでの支援による取り組みを求める。又看取りの指針等を基に研修を行い、職員等関係者の連携を図る事を期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故等の発生に備え、定期的に消防署等の協力を得て訓練を行い、実践力を身に付けている。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練の実施、非常食を常備している。地域との協力体制も話し合いできている。</p>	<p>消防署や地域との協力体制も出来ており、利用者と共に避難訓練等を実施している。夜間を想定した訓練を実施し、その課題も出され、今後の対策に活かされるよう検討している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に留意し、丁寧な言葉かけや対応に心がけている。	管理者及び職員は、個人の尊厳について常に意識をしながら、言葉かけを行っている。個人情報保護については、誰もが目につきやすい場所に掲示しており、事業所全体で取り組んでいる事が伺われる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表出し自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らし、希望を最優先し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ好みの服などその人らしいおしゃれができるよう清潔にも気をつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に話をしながら食事の準備から片づけ等を行いながら、季節のものを取り入れ楽しい時間となるよう支援している(食事のメニューを利用者様と考える)。	今までの食習慣を大切にしている。秋のお彼岸には利用者と一緒におはぎを作ったり、季節の漬物を漬け、それを食卓に出し、一人ひとりの状態に応じてコミュニケーションを図り、利用者と職員は和やかに食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分摂取量を確認記録する。(個々に応じて対応)又管理栄養士に定期的に献立表を見ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあわせて排泄のパターンを知り、自立に向けて支援している。	一人ひとりの毎回の排泄状況を記録しながら、日々の排泄の状態を確認している。トイレ誘導は自尊心を傷つける事なく、さり気なく行っている。職員会で自立に向けた排泄について検討を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因を考えつつ毎食野菜等食物繊維の摂取や水分補給や適度に体が動かせるように留意している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にあわせていつでも入浴を楽しめるよう支援している。	入浴時間は、毎日可能な体制である。入浴したくない方には、無理強いせず全身清拭に変えたり、タイミングと声かけを工夫して、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。季節に応じてゆず湯や入浴剤を用いている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣等に合わせ安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬への理解、副作用や体調服用後の症状を観察し、変化に対して看護師と連携し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々を理解し、役割や楽しみごと、気分転換なども取り入れ日々楽しみながら生活できるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添ったり、四季を感じていただけるよう計画したりし外出を企画している。	畑に行き、作物の収穫や、玄関先の植物の世話をしたり、四季に合わせてドライブに出かけている。又地域の祭りや催事に参加しながら、家族と一緒に地域の人々との交流を図っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が使えるよう支援している、本人家族の意向に添い支援しているが、利用者様の金銭の管理は行っていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由に使い、手紙の書けない方は代筆を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	協働空間は、季節の花や写真を飾り、和室にはコタツを置くなどしてリラックスし、くつろげる空間を作り過ごせるよう支援している。	季節の草花が咲き誇り、壁には思い出の写真が掲載され、一つひとつ丁寧に施してあり、楽しみながら過ごせるよう環境を整えている。共有空間は全体的に清潔感があり、広い居間からは豊かな自然が眺められ居心地の良い空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室、台所、ソファ等ひとりでの時間、気の合った方同士、職員などで過ごせる場所作りに工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れたものや布団、ベット等自分の馴染みの物を置いていただき個性を大切にさせていただき、居心地よく暮らせるよう工夫している。	居室には、大切な家族との写真、友達との写真やメッセージ等置かれている。テレビやビデオも持ち込まれ、細やかな配慮があり、本人が安心してくつろげる家庭的な雰囲気有している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることを活かし、安全で、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫し安全に日々生活が送れるよう環境作りを行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	・運営推進会議の内容が単調になっている。	・会議内容を地域の方との関わりを持てるテーマとし、家族等には会議の議事録を案内するなどして、サービスの向上をめざす。	・会議の内容を決める(テーマ設定)・地域の方や関係者からの参加協力を得る。・家族等に会議の議事録を案内する。	6ヶ月
2	12	・重度化、終末期に向けた説明と方針ができていない。	・本人、家族の安心感が得られる為に重度化や終末期に向けた説明と方針の共有。	・意思の確認書等の作成。・看取りの指針等を基に研修を行う。	6ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。